

グローバル人材

「ICU」、「AIU」といったら何のことか分かりますか。ICUは国際基督教大学 (International Christian University)、AIUは国際教養大学 (Akita International University) のことです。前者は東京の私立大学、後者は秋田の公立大学で、両者共にグローバル人材育成の分野で注目されている大学です。授業が英語で行われ、ディベート授業や海外留学が教育課程に組み込まれているなどアメリカの大学を意識した教育に特徴があります。企業からの注目度が高く就職に強く、入試でも難関校として知られています。

こうした大学が注目を集めている背景には、インターネットの発達や自由貿易の拡大などグローバル化の進展と時代の変化に対応する人材育成を切望する企業の要求があります。文部科学省はこれに対応して「グローバル人材育成事業」として多額の予算を推進大学に配分しています。愛知県立大学でグローバル人材育成のための特別推薦入試が昨年度から実施されているのもその一例です (本校の先輩も合格し進学しています)。

ところで、「グローバル人材」とはどのような力を持った人を指すのでしょうか。もちろんこうした能力は文系の人だけに必要なものではありません。

まず「コミュニケーション能力」です。例えば、英語が使えることはもちろん、英語の発想法に切り替えることができる力です。論理的で結論先出のトップダウン型の話法は日本人にはなかなか馴染めません。またウイットの利いたスピーチも英語のスピーチの特徴です。要は以心伝心型の日本人のコミュニケーションからの転換なのです。

次に、「知的好奇心」を持ち続ける力です。日本の大学では入試段階で専門領域が決まってしまうのですが、アメリカの大学では入学後の幅広いリベラルアーツ (教養) の学習の中で専門を絞り込んでいきます。しかも複数の専攻を持つことが出来るなど学際的な研究も保証しています。こうした仕組みが柔軟で創造的な思考力を身につけ、異文化をもった人々と偏見なしに語り合える力を育てることに繋がると考えられています。

最後に、「己を知ること」です。自己の限界・可能性、強み・弱み、資源を知る努力を怠らないことです。また自己の属する文化について正確に理解することも主体性を保持する上で不可欠だと思います。

グローバル化に対応する力は海外に出た時にのみ必要なわけではありません。外国人と学ぶ・働く・暮らすということが現実になってきた現代にあって、すべての人に求められる力だと言えるでしょう。

(文責：今井雅)

1年の窓

1年生も前半戦が終了しました。小テスト、宿題、部活動と毎日やるのがたくさんある中で生活のリズムはできていますか？家庭生活において規則正しい勉強時間の量や質は確保されているでしょうか？

先日、3年生の二者懇で「夜は疲れて睡魔が襲い、勉強が捗らない」と耳にしました。眠くなったら諦めて寝ていては受験には勝てません。デメリットはあるものの朝型の勉強はどうでしょうか？朝は1日の中で最も頭脳が冴えわたっている時間帯です。朝、勉強をすることによって、脳内にすんなり情報を送り込んでいくことができます。何より、気になるテレビ番組やLINEやメールに気を取られないで勉強に集中できるのではないのでしょうか。スマホの誘惑にも打ち勝つことも受験勉強には必要です。

1年生の今のうちから生活のリズムを作っておきましょう。

(文責 西崎)

2年の窓

11月1日の進研模試まで丁度一か月前になりました。この試験が受験の第一歩目の模試になります。5科目しっかり勉強することを意識して取り組みましょう。さて、前号では来年に向けた状況を説明しました。今号では、具体的に何に力を入れて勉強すべきについてです。

先日、生徒と懇談する機会がありました。なかなか伸びていない人に共通することは、①勉強時間の不足、②勉強する教科の偏り、③1年生の復習をしていない、です。特に、授業の予習や小テストの勉強だけで毎日の学習を終えている人は必ず学力が低下していきます。予習などに加えて1時間以上の復習時間をとり、1年生や2年生前半の復習を行いましょ。また、この秋冬は特に国数英の完成に努めましょ。この3つは完成まで時間がかかる一方で、一度できるようになると少ない復習で済みます。さあ受験のスタートです。(文責：竹腰)

3年の窓

志望校合格に向けて、クラスの雰囲気、学年の雰囲気も徐々に気合いの入ったものになってきたなど感じています。今、同じ教室の中には、AO入試をすでに受けた子もいれば、推薦入試に向けて出願の準備をしている子、口頭試問へ向けての特訓を先生にしてもらっている子もいます。そしてもちろん、一般入試に向けて、今は脇目も振らずひたすら勉強している子もいます。目指しているゴールが同じでも、そこへ向かう道は一本道ではありません。自分で道を選択してゴールを目指していくのです。自分の選んだ道が本当に正しいのか、この道を進んでゴールにたどり着けるのか、不安な気持ちになることもあるかと思えます。それでもとにかく今は、それぞれの目の前にあることを精いっぱいやっていこう。家での学習、授業、模試、朝学の時間、1つ1つを大切にしていって確実に自分のものにしていくことです。

いよいよ明日は、センター試験の願書の発送です。来週でセンター試験100日前。秋からの学習で得点はまだまだ伸びます。残りの100日、特に今までは中々手がまわっていなかった科目に力をしっかり注ぎ、得点アップを目指しましょう。今の時点で自分の力を見切ってしまうように。模試結果をしっかり分析して自分の得点の伸びる余地はどこにあるかをまずは把握し、試験直前まで力を伸ばしていきましょう。

(文責：渡部)

○文系の窓○ 学部学科研究

3年生はいよいよセンター試験出願に始まる受験が本格化します。2年生は先輩と語る会、学部学科講話が、1年生も職業講話があり、いよいよ文理選択に向けて始動します。10月は「進路を考える月」です。ということで、今回は学部学科についてのお話にします。

多治見高校には、教員志望の生徒が多くいます。先生を目指すなら「教育学部」と考えますが、その教育学部、教育学と教員養成の2種類あることを知っていますか。

教育学とは、教師になることを目的とするものではなく、教育の本質や目的、人間形成と教育との関わりなどを、より大きな観点から教育の有り方などを追求していくという学問です。学校教育だけではなく、教育行政や社会教育、生涯教育なども研究の対象です。また、人間の内面を深く研究分野でもあります。一方、教員養成系の方は教員免許の取得が卒業の要件となっている「教員養成課程」と免許の取得を義務付けず幅広い知識をもった人材を育てることを目的とした「総合科学課程」とに分けられます。教員養成課程は、カリキュラムも教員免許の取得に必要な科目を中心に編成されています。1～2年次にかけては教養教育科目や基礎教育科目を学び、3年次以降は各教科の指導法や、子どもの発達過程など必要な技術や知識を習得します。また一番の目玉としては教育実習もあります。

「教育」を学問として研究するのが教育学、教員としてより実践的な研究をするのが教員養成系です。名古屋大学教育学部と岐阜大学教育学部では研究分野が異なります。とにかく学部学科について、しっかり研究しておくことが大切です。(文責 大島)

○理系の窓○ (文責：鈴木貴)

似て非なるものは世間に沢山あります。奇しくも同じようなテーマで、上記の文系の窓も書かれていますが、今回は建築デザイン系学科のお話です。

芸術系の進路 といっても、世の中にそう多くはありません。芸術だけで生活出来る画家や音楽家がどれだけ日本にいるのやら。そんな中で芸術的な要素もあり、芸術家よりは身近に考えられる進路が建築関係のデザイナーでしょう。建築系のデザインといえば、「建物自身をデザインする」建築デザイン系「家具などの調度品、内装をデザインする」インテリアデザイン系の2種類に大別されます。前者は美しいだけでなく強度的にも安心な設計をしなくてはならないので完全な理系であり、芸術的な要素もあるけれどメインは建築をすること。物理や数学Ⅲの勉強が必須です。後者は前者と比べ芸術的要素が強く、物理や数学Ⅲを学んでいなくても入学出来るところが多いです。

さて、近隣の名古屋に目を向けますと名古屋工業大学には①建築デザイン工学科、②都市社会工学科名古屋大学には③建築都市デザイン学科といった学科があります。①③も②③も共通の文字が多くて名前が良く似ています。①は名前の通りの学科です。②③は“建物”でなく“都市”を造ることを目標にしており、いずれも自然環境のコントロール技術(災害対策)を学ぶなど共通する項目はとて多いですが、②はライフラインの維持管理、③は景観デザインを主要な学習項目として取り上げるなど微妙なコンセプトの差があります。卒業生の主な就職先ですが①③は建築設計事務所や住宅メーカー等②の卒業生は国土交通省・環境省や愛知県・名古屋市の技術職公務員や建設産業が多いようです。

☑総合学習の扉☑

第4回 総合学習の扉の中へ 3歩目!

先輩と語ろう!!

前回の総合学習では、オープンキャンパスについて交流をしたゼミや自分の研究テーマを進めていったゼミがありました。オープンキャンパスの交流では、自分の行けなかった大学の特色などを知ることができたと思います。また、自分の興味がない学部を知ること新たな発見もあったと思います。今後の検証にぜひ生かして行ってほしいです。

さて、今後は自分の研究テーマ、またはゼミ全体の研究テーマを深めていくかが中心になってきます。まだどのように進めていったらよいかわからないと悩んでいる人もいるでしょう。また、レジュメ作成のポイントが理解できていないという人もいるでしょう。そこで、10月4日(土)の先輩と語る会をうまく活用してください。当日は多数の卒業生が、大学での経験や高校生活での反省など様々に語ってくれると思います。その時に、大学でのレポート作成方法を聞き、レポートとはどのようなものか、また、その先の卒業論文のまとめ方、研究の仕方などを知ることができるチャンスです。この機会に積極的にお話を伺い、今後の総合学習に生かし進路検証をしてほしい

(文責 波勢)

○Book Review○

『ぼくは勉強ができない』 (山田 詠美 新潮文庫)

みなさんは、普通科の多治見高校で大学進学を目標とした授業を受けています。そんな毎日の中で、ふと「なぜ大学を目指しているんだろう。」とか「勉強よりもっと大事なことがたくさんあるんじゃないか。」という気持ちをもったことはありませんか。

今回の紹介する小説の主人公は、サッカーが好きな男子高校生で、自分は勉強ができないことを堂々と認めた上で、勉強よりも大切なことがあると確信しています。男なら何より女にもてることのほうが大切だと考え、勉強が大切だとする社会の型にはまった大人や同級生に嫌悪感すら抱くほどです。しかし、そんな主人公が家族や友人、恋人との関わりを通じて、最後には大学へ進学し勉強しようと決意します。

この小説を読むことで、主人公に大きな変化を与えた色々な出来事や言葉を、自分も受け止め考えてみると、今までとは違った角度から大学進学について考えることができるかもしれません。

この小説の一部は、1999年(平成11年)のセンター試験の問題文として使用されています。(文責：谷)

